

# 昭和大学附属烏山病院だより あおぞら

〔発行責任者〕 病院長 岩波 明  
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第144号

[2019年7月31日発行]

## 7/11 地域移行部会

精神保健福祉士 工藤 舞

2019年7月11日(木)に世田谷区自立支援協議会地域移行部会が当院にて開催されました。世田谷区自立支援協議会地域移行部会では、日頃より精神科病院に入院している方の地域移行・地域定着に向けた支援の在り方や課題を検討しています。この度は平素から関わりのある地域支援者の方々に多数参加していただき、地域移行支援を利用して烏山病院から退院された患者様の事例紹介や、模擬事例を用いたグループワークが行なわれました。グループワークでは、地域支援者と医療スタッフが同じチームとなり、模擬事例を通じて一緒に考え連携を深めていく機会のひとつにしようといった目的のもと、活発な意見交換を行うことが出来ました。

部会に参加された地域支援者の感想をまとめてみたところ、「立場の違う他職種が集まり意見交換をしたことで、お互いにできることは何かを再確認することができた。病院に対して敷居が高く連絡がとりづらいつ感じていたが、グループワークを通じて病院スタッフが患者様の退院後のことを切実に考えていることや、医師も参加していたことで地域と交わろうとしている姿勢に心打たれた。受け入れる地域側もより良い地域移行支援が出来るよう努めていきたいとモチベーションを高めることにも繋がった。」とのご意見が多数寄せられました。地域支援者も病院スタッフも患者様の支援をするにあたり、どのような支援が患者様らしい生き生きとした生活に繋がるのかを試行錯誤されていると思います。立場は違えど同じ志を持った支援者が集まり意見を交わすこと、時には本当にこの支援方法で良いのだろうかと思悩ますこともあるかと思いますが、そのような時こそ双方の率直な意見交換や評価に耳を傾けることが必要になってくるのではないかと私自身も支援のあり方について多く考え直すことが出来ました。今後も、患者様の早期退院や安心かつ楽しみ、喜びのある地域生活をしていただける支援が出来るよう、これまで以上に地域と病院の繋がりを強めていきたいと思っております。

地域移行部会の取組みについてご興味のある方は、インターネットから「世田谷区地域移行部会」と検索していただきますと日頃の活動内容が記載されておりますので是非ご覧ください。

### 地域移行 通信 17号 平成23年9月発行

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみならず多くの関係機関をのぞいて発行しています。

平成23年5月18日 地域移行部会を開催しました！  
今年度第1回目の地域移行部会を5月18日に開催しました。ご参加くださった方々に感謝していただきました。ありがとうございました。  
この部会は、毎回テーマを設け、参加者が安心して地域で住み続けるための実態把握について、情報交換を行っています。今回はグループワークを通じて、積極的に意見交換をしました。

### 『22年度の地域移行部会を振り返って ～これからの地域移行部会に向けて～』

### 地域移行・地域定着支援事業の動向と現状の情勢 【学習ポイント】 池田さん

「地域移行・地域定着支援事業」を取り巻く、都・都庁・区との動向や現状などを報告していただきました。

『障害者自立支援法の改正により、地域移行・地域定着支援事業が個別給付化へ』

- 今年度の障害者自立支援法の改正では、相談支援の充実を図るため、「個別相談支援センター」の設置が「自立支援協議会を法律上位置づけ」「地域移行・地域定着支援事業の個別給付化」「支給決定のプロセスの見直し」の大きく4つの事項が盛り込まれています。
- 精神障害者の「地域移行・地域定着支援事業」は、国の事業を受けて、東京都が相談支援支援事業として実施しています。都政では、これまで「地域移行・地域定着支援事業」として実施してきた内容を個別給付化し、地域移行の取り組みを実施することとしています。
- 東京都の地域移行・地域定着支援事業は23年度で終了する予定となっており、その後は、国で示している個別給付化の制度に移行することになります。しかし、国で提示している枠組みだけでは、これまでどおりの実施を継続することが難しいと考えています。
- 世田谷区では、障害者の相談支援は、5ヶ年の相談支援事業で行っています。そもそも、1、5人体制で運営している事業所が5ヶ所あるだけでは、8の方向の市民の方に対応するのは難しいと思っております。各事業所とも一生懸命にやっています。それでも、(実数として)月20人の方に対応するのが現状です。
- そこで、個別給付制度となった場合をイメージするために、あくまでも仮ですが、現在、個別給付となっている「サービス利用計画作成費」の1件当たりの金額を、地域移行・地域定着支援事業に当てはめて試算してみます。そうすると、これまでは年670万円に達していた個別給付だったのが、個別給付で概算すると、年200万円程度になってしまおうという状況です。あくまでも概算ですが、これで仮に事業が成り立たないという話になってきます。

『今後、どのように地域移行・地域定着支援の体制を整備していけばよいか』

- 1、000人以上の区民の方が精神科病院に入院しており、そのうち1年以上入院している方が半数以上と推定されています。お金がないから支援できないというところになってはならないと考えます。
- また、地域移行・地域定着支援は、自中活動の場、在宅支援、居住と移行に連携することが有効な支援となります。また不足しています。また、支援者ネットワークの構築も重要で、課題はいらっしゃいますが、1人でも多くの方が地域に定着できるように体制をどのように整えていけばよいか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

(次ページへつづきます)

# 家族教室

精神医学教室 講師 常岡 俊昭

毎月第4木曜日の18時～作業療法室で行っている家族教室ですが、6月25日は埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科の横山恵子教授と「こどもびあ」代表の坂本拓さんに来て頂いて家族の立場からの精神疾患への関わり方についてお話を頂きました。家族教室というと、「親や兄弟など本人の面倒を見ていく人」と考えがちですが、当事者自身が子供など守るべき家族を持つ場合も多く存在します。本人が病気と共存しながら生活していく中で、守られるべきものたちがどのような葛藤を抱えているのか、という事を考えさせられました。

「家族の回復」と言葉では言いますが、家族にも様々な立場があり、今までの本人と過ごしてきた歴史があり、家族同士が繋がって仲間ができないと難しいのでは、という思いを新たにしました。また当事者・家族・多職種を交えてのディスカッションではそれぞれが普段悩みながら行っている病気との向き合い方について相談ができました。

こどもびあは「精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人」が定期的集っています。「親の悩みを打ち明けられなかった」「どうせ分かってもらえない」と思っていたご家族の方は一度連絡を取ってみてはいかがでしょうか？

[https://kodomoftf.amebaownd.com/pages/828211/page\\_201702012156](https://kodomoftf.amebaownd.com/pages/828211/page_201702012156)

## C3 病棟ボランティア アンサンブルすばる演奏

作業療法士 宮下 裕之



6月19日(水)午後、C3病棟ホールにて、“アンサンブルすばる”による演奏会が開かれました。メンバーはクラリネット、フルート、ピアノの3人で、懐かしの歌謡曲、季節の童謡・唱歌、映画音楽からクラシックまで、バラエティに富んだ全18曲を演奏していただきました。C3病棟での演奏会は年に2回ペースで10年以上続いています。初期の頃と比べ、最近は加山雄三やグループサウンズの方が参加者に好評と感じているとのこと。今回の曲目「旅人よ」「翼をください」に、そんな思いが反映されていました。時代の流れと、長く続けていただいている演奏会の歴史が感じられるエピソードです。後半の「椰子の実」「浜辺の歌」では、楽器ではなく歌声も披露していただきました。メンバーの男性お2人はコーラスグループにも参加しているとのこと。本格的な歌声に患者さんも引き込まれ、一緒に歌うことが出来ました。

# WRAP プログラム お出かけ こころの아트展

デイケア利用者 1さん

6月28日(金)に池袋にある東京芸術劇場で開催された心のアート展を、WRAPのメンバーと見に行きました。全部見た中で気になった作品は安田昌功さんの非日常という作品です。白地に赤と青の2色でデザインされたその絵を見て、私は表現の繊細さと難しさを感じました。自分は10代の頃、美大を目指しデザイン工芸科を専攻して、いろいろ美術の勉強をしていましたので、出展された皆さんの技術の素晴らしさに感嘆いたしました。アートに触れる度に感じる事ですが、障害の有無に関係なく、自由な表現が出来る世の中でこれからもあり続けてほしいと思いました。

★なお、こころのアート展には当院デイケア通所者も選出されています。来月号にてご紹介いたします。

## 納涼祭を終えて

B4病棟看護師 山崎 陽子

7月29日(月)14:00から1時間、B4病棟ホールにて納涼祭を実施しました。B4病棟では毎年、病棟OTの一環として夏に納涼祭を実施しております。

今年は、昨年好評だった盆踊り「東京音頭」と「炭坑節」を、参加された患者さん全員で踊りました。踊りが終わる頃にはスタッフも汗だくになりながら夢中になって踊りました。患者さんからは「若い頃に浴衣を着て盆踊りに行ったことを思い出しました！本当に楽しかったです。ありがとう」と嬉しいお言葉を頂きました。また、嬉しそうに太鼓を叩いたり、先導して下さる患者さんなど皆さん積極的に参加されていました。

盆踊りの他にゲームも楽しみました。はじめは、「これ何だ？」クイズです。箱の中の物(スライムやぬいぐるみ等)を触って当てるゲームです。恐る恐る箱の中に手を入れ触ってみる姿を他の患者さん方が「危ない！危ない！噛まれる！」等と煽ったり、大笑いしながらゲームが進んでいきました。そして次は患者さんを代表して4名が参加し、チョコレートのつかみ取り競争をしました。チョコレートをどれだけ多く掴めるかを競います。このゲームは、手の大きい人が有利となるため、男性の勝利でした。しかし女性も負けてはいられません。今度はチョコレートのグラム当てゲームです。決められた重さ(グラム)に一番近い方が勝利します。このゲームでは女性も振るって参加して頂きました。見ている患者さんからは「もう少し！多いよ！」など声援が送られ皆さんで楽しむ事が出来ました！

暑い日が続く中での、ほんの少しの清涼のひとつ。患者さんもスタッフも心涼しくなれた一日でした。



皆様、作業療法はご存知でしょうか？

作業療法とは、『人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す』と定義されています。

作業療法の活躍の場は身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害の領域に分かれますが、今回は精神障害領域における作業療法士の仕事の紹介のために、昭和大学附属烏山病院で動画撮影が行われました。昭和大学保健医療学部作業療法学科の教員の協力のもと、撮影・出演スタッフは総勢 20 名を超える大人数での撮影となりました。

うつ病を患っている方の復職支援をテーマにシナリオ、流れ、場面設定、台詞、衣装・小道具と全て一から検討し、作業療法の開始から、治療プログラム、カンファレンス、就労準備と経過を追って仕事の説明を行っています。中身は作業療法の専門性が伝わり、見ている人にも分かりやすい動画になるように心掛けています。撮影当日は緊張のあまり台詞を忘れてしまったり、カメラが回ることで堅くなってしまったりと NG がありながらも、和やかな雰囲気での撮影が進みました。

YouTube で【作業療法 精神領域】で検索すると“動画で見る作業療法士の仕事-精神領域編”で見ること出来るので、作業療法を知っている方、知らない方も是非一度見てもらえると嬉しいです。動画撮影に御協力頂いた方々この場をお借りして御礼申し上げます。

【動画撮影 左：玄関

右：集合】



### 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～土曜日・8時30分～17時  
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329  
土曜日 03-3300-5231  
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時  
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《6月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,448 (8,883)	6,059 (6,123)
◇一日平均患者数	281.6 (286.5)	242.4 (278.3)
◆診療実日数	30 (31)	25 (22)

### 【編集後記】

ぐずついた天気の日が続いていますが、皆様体調は崩されていないですか？私はいつ梅雨が明けるのかと天気予報とにらめっこの毎日を過ごしています。東京では梅雨寒の日が続き、7月前半に30℃を超える日がなかったのは昭和61年以降33年ぶりだそうです。梅雨が明ければいよいよ夏本番です。じめじめした日や梅雨明けの暑い時期には食中毒が多くなるそうですので、うがいや手洗いなどの感染対策をしっかりして元気に夏を過ごしましょう。

広報委員 川島

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちして

おります。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp)

